

秋田大学 整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 秋田大学整形外科専門研修後の成果
3. 秋田大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ 基本的臨床能力の研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャルティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様には質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 秋田大学整形外科専門研修後の成果

秋田大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下の基本的臨床能力も習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

3. 秋田大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

秋田大学整形外科専門研修プログラムは到達目標を「医の倫理に基づいた「医療の実践」を体得し、高度の整形外科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得した整形外科専門医の育成を図り、国民の健康増進、医療の向上に貢献する」ことを目的としています。2017年からスタートした新専門医制度に先立ち、秋田大学整形

外科では、2007 年より独自の後期研修プログラムを構築・運用してきました。その経験と実績により洗練された研修内容を提供します。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢社会を迎えた我が国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、秋田大学整形外科には、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、上肢、足の外科、外傷、骨軟部腫瘍、リウマチ、骨代謝、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設は、小児整形外科、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、地域医療、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった約 20 におよぶ施設、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

秋田大学整形外科は、開講から 43 年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。大学の周囲には、日本の最先端科学技術のノウハウを有する研究機関があり、それらの施設と連携して様々な分野での臨床・研究を進めています。

秋田大学整形外科は、専攻医の皆様には素晴らしい研究環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。

4. 研修方法

参照資料 整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP） <http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、秋田大学医学部附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1カ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9カ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

① 専門知識および専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識および専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識習得状況および技能習得状況を6カ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を作成し、知識習得および技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識や技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

② 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を秋田大学医学部附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

③ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

④ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの経験症例を用いて研究した成果を発表する研究会を年1回以上開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑤ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、適宜指導や助言を行います。

⑥ 基本的診療能力の研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力を早期に獲得させます。

秋田大学医学部附属病院および各研修施設、また日本整形外科学会の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑦ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は秋田県内の医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は秋田県内の医師不足地域中小病院および中核病院に3ヵ月以上勤務します。

秋田県では9つの二次医療圏(大館・鹿角、北秋田、能代・山本、秋田周辺、由利本荘・にかほ、大仙・仙北、横手、湯沢・雄勝)が設定されていますが、二次医療圏ごとの医師数が全国平均を上回るのは秋田周辺二次医療圏のみです。従って他の8つの二次医療圏は医師不足地域に位置づけられています。

本プログラムの研修施設群のうち、秋田周辺医療圏以外の基幹型臨床研修病院を「医師不足地域中核病院」、同医療圏以外の、基幹型臨床研修病院以外の病院を「医師不足地域中小病院」と定義します。

本プログラムの連携施設で、医師不足地域中核病院は、雄勝中央病院、能代厚生医療センター、本荘第一病院、平鹿総合病院、由利組合総合病院、市立横手病院の6施設、医師不足地域中小病院は、市立大森病院、北秋田市民病院、男鹿みなと市民病院、町立羽後病院、秋田労災病院、市立角館総合病院の6施設です。

本プログラムは基幹施設および連携施設の全てが秋田県内にありますが、

地域医療研修の一環として他県における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行う可能性があります。

過去3年以内に専攻医が2ヵ月以上の研修を行ったことがある秋田県外の医療機関

- ・医療法人社団悠仁会羊ヶ丘病院(札幌市厚別区)

⑧ サブスペシャルティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの秋田大学医学部附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を1年に1回行い、専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた秋田大学医学部附属病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

年1回の定期委員会（12月）を開催します。3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会の研修プログラムは秋田大学整形外科ホームページ(<http://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/>)で公開します。

③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会

へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
 - ③臨床医として十分な適性が備わっていること。
 - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得していること。
 - ⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

秋田大学医学部附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。秋田県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【秋田大学医学部附属病院での整形外科専門研修週間予定表】

分野	指導医数	週間スケジュール				
		月	火	水	木	金
脊椎・脊髄	4	AM 症例検討、脊椎脊髄病外来	AM 脊椎脊髄病外来	AM 脊椎脊髄病外来	AM 手術症例検討会、手術	AM 手術
		PM 総回診	PM 脊髄造影検査	PM 脊髄造影検査	PM 手術	PM 手術
股関節	4	AM 病棟業務	AM 手術	AM 病棟業務	AM 手術症例検討会、股関節外来	AM 手術
		PM 総回診、症例検討	PM 手術	PM 病棟業務	PM 股関節外来	PM 手術
膝・肩関節	6	AM 病棟業務	AM 手術	AM 病棟業務	AM 手術症例検討会、専門外来	AM 手術
		PM 総回診、症例検討	PM 手術	PM 病棟業務	PM 専門外来	PM 手術
骨軟部腫瘍	3	AM 病棟業務	AM 手術	AM 骨軟部腫瘍外来	AM 手術症例検討会	AM 骨軟部腫瘍外来
		PM 総回診、症例検討	PM 手術	PM 病棟業務	PM 手術	PM 骨軟部腫瘍外来
足外科・外傷	5	AM 病棟業務	AM 手術	AM 病棟業務	AM 手術症例検討会、足外科外来	AM 足外科外来
		PM 総回診、症例検討	PM 手術	PM 病棟業務	PM 足外科外来	PM 手術
スポーツ、リハビリテーション	5	AM リハビリ検討会	AM 手術	AM リハビリ外来	AM 手術症例検討会、スポーツ外来	AM 手術
		PM 総回診、症例検討	PM 手術	PM 病棟業務	PM スポーツ外来	PM 手術

* 指導医数は、のべ人数

本プログラムの連携施設は 17 施設（雄勝中央病院、秋田県立医療療育センター、秋田赤十字病院、市立大森病院、北秋田市民病院、男鹿みなと市民病院、能代厚生医療センター、本荘第一病院、町立羽後病院、秋田労災病院、平鹿総合病院、市立秋田総合病院、由利組合総合病院、中通総合病院、市立角館病院、秋田厚生医療センター、市立横手病院）です。

それぞれの施設の研修可能分野、指導医と指導分野を下表に示します。整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

【秋田大学整形外科専門研修プログラム 専攻医ローテーション表】												
研修病院群と指導可能な研修領域												
医療機関	指導可能な研修領域										専攻医受け入れ可能数	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
秋田大学医学部附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
雄勝中央病院	●	●	●	●	●						●	1
秋田県立医療療育センター	●	●	●				●		●			1
秋田赤十字病院	●	●	●	●	●		●	●	●			2
市立大森病院			●	●							●	1
北秋田市民病院				●	●						●	1
男鹿みなと市民病院		●		●							●	1
能代厚生医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2
本荘第一病院		●	●	●	●	●					●	1
町立羽後病院			●	●							●	1

秋田労災病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2
平鹿総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1
市立秋田総合病院		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1
由利組合総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2
中通総合病院	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	2
市立角館総合病院			●	●	●	●	●	●	●	●	●	1
秋田厚生医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3
市立横手病院	●	●		●		●				●	●	1

専門研修施設群 専門研修指導医 一覧

施設名	指導医名	指導分野 1	指導分野 2	指導分野 3
秋田大学医学部附属病院	島田 洋一	1	4	9
秋田大学医学部附属病院	宮腰 尚久	1	4	8
秋田大学医学部附属病院	本郷 道生	1	4	7
秋田大学医学部附属病院	永澤 博幸	7	8	10
秋田大学医学部附属病院	粕川 雄司	1	5	9
秋田大学医学部附属病院	野坂 光司	3	4	7
秋田大学医学部附属病院	石川 慶紀	1	5	9
秋田大学医学部附属病院	齊藤 英知	2	3	6
秋田大学医学部附属病院	木島 泰明	2	3	6
秋田大学医学部附属病院	土江 博幸	4	8	10
雄勝中央病院	浦山 雅和	2	4	5
雄勝中央病院	前川 重人	1	3	10
秋田県立医療療育センター	石原 芳人	2	3	7
秋田県立医療療育センター	三澤 晶子	1	7	9
秋田赤十字病院	石河 紀之	1	8	9
秋田赤十字病院	鈴木 哲哉	1	3	7
秋田赤十字病院	湯本 聡	2	4	5
市立大森病院	大場 雅史	3	4	10
北秋田市民病院	相澤 俊朗	4	5	10
男鹿みなと市民病院	今野 則和	2	4	10
能代厚生医療センター	佐藤 毅	3	4	6
能代厚生医療センター	久保田 均	3	5	9
能代厚生医療センター	伊藤 博紀	2	7	10
能代厚生医療センター	佐々木 寛	1	8	9

本荘第一病院	渡部 亘	3	4	5
本荘第一病院	松浦 裕史	2	6	10
町立羽後病院	阿部 秀一	3	4	10
秋田労災病院	千葉 光穂	1	8	9
秋田労災病院	奥山幸一郎	1	4	10
秋田労災病院	木戸 忠人	1	5	7
秋田労災病院	関 展寿	2	5	6
秋田労災病院	加茂 啓志	3	4	9
平鹿総合病院	鈴木 均	3	4	10
平鹿総合病院	櫻場 乾	1	5	9
平鹿総合病院	小林 志	2	5	7
市立秋田総合病院	木村 善明	3	4	6
市立秋田総合病院	柏倉 剛	5	7	9
市立秋田総合病院	若林 育子	2	4	10
由利組合総合病院	菊池 俊彦	1	9	10
由利組合総合病院	長谷川朗彦	3	5	6
由利組合総合病院	鈴木 紀夫	3	4	7
由利組合総合病院	白幡 毅士	2	5	8
中通総合病院	千馬 誠悦	2	4	9
中通総合病院	成田裕一郎	2	5	6
中通総合病院	畠山 雄二	1	4	8
市立角館総合病院	蝦名 寿仁	7	9	10
市立角館総合病院	谷 貴行	3	5	6
市立角館総合病院	千田 秀一	3	4	8
秋田厚生医療センター	阿部 栄二	1	8	10
秋田厚生医療センター	村井 肇	1	5	9
秋田厚生医療センター	小西奈津雄	3	6	7
秋田厚生医療センター	小林 孝	1	4	8
秋田厚生医療センター	阿部 利樹	1	2	5
秋田厚生医療センター	菊池 一馬	1	3	9
市立横手病院	江畑公仁男	1	4	9
市立横手病院	富岡 立	2	6	10

--	--	--	--	--

指導分野

1:脊椎脊髄、2:上肢・手、3:下肢、4:外傷、5:リウマチ、6:スポーツ、7:小児、8:腫瘍、9:リハビリテーション、10:地域医療

研修ローテーションの1例

1年目 能代厚生医療センター

12か月間で、脊椎2単位、上肢・手2単位、下肢2単位、外傷2単位、リウマチ1単位、スポーツ1単位、地域医療2単位

2年目 平鹿総合病院

12か月間で、脊椎1単位、上肢・手1単位、外傷1単位、リウマチ2単位、スポーツ1単位、腫瘍2単位、リハビリ2単位、地域医療2単位

3年目 秋田県立医療療育センター

3か月間で、小児整形3単位

秋田大学医学部附属病院

9か月間で、脊椎2単位、上肢・手1単位、外傷1単位、スポーツ1単位、腫瘍2単位、リハビリ2単位

4年目 秋田大学医学部附属病院

9か月間で、脊椎1単位、下肢2単位、外傷2単位、リウマチ1単位、スポーツ1単位、腫瘍1単位、リハビリ1単位

3年9か月間で、脊椎6単位、上肢・手4単位、下肢4単位、外傷6単位、リウマチ4単位、スポーツ4単位、小児整形3単位、腫瘍5単位、リハビリ5単位、地域医療4単位の45単位

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である秋田大学医学部附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために秋田大学医学部附属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、このプログラムが20名以上の専攻医を有することになった場合は適宜副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② 基幹施設の役割

基幹施設である秋田大学医学部附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。秋田大学医学部附属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 秋田大学医学部附属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。秋田大学医学部附属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指

導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である秋田大学医学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

秋田大学医学部附属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次 9 名 合計 36 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準から下記のようになり、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次 9 名、合計 36 名と設定しました。

	新患数	手術数	指導医数	専攻医最大受入可能数
秋田大学医学部附属病院	930	414	10	12
雄勝中央病院	1750	322	2	1
秋田県立医療療育センター	39	39	2	1
秋田赤十字病院	3281	801	3	2
市立大森病院	1500	367	1	1
北秋田市民病院	1840	337	1	1
男鹿みなと市民病院	1351	122	1	1
能代厚生医療センター	2373	773	4	2

本荘第一病院	1625	129	2	1
--------	------	-----	---	---

町立羽後病院	1915	329	1	1
秋田労災病院	3726	696	5	2
平鹿総合病院	2073	429	3	1
市立秋田総合病院	2134	490	3	1
由利組合総合病院	4106	706	4	2
中通総合病院	2899	1099	3	2
市立角館総合病院	1451	290	3	1
秋田厚生医療センター	5110	1133	6	3
市立横手病院	2208	427	2	1

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

秋田大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ
<http://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/>

- 必要書類 : ① 申請書 (ダウンロード)
 ② 履歴書 (ダウンロード)
 ③ 医師免許証 (コピー)
 ④ 医師臨床研修修了登録証 (コピー)
 ⑤ 健康診断書

【募集期間】 9月1日～11月30日

【問い合わせ先】

〒010-8543 秋田県秋田市本道 1-1-1
 秋田大学大学院医学系研究科 整形外科学講座
 担当： 永澤 博幸
 Tel: 018-884-6148 Fax: 018-836-2617
seikei@doc.med.akita-u.ac.jp

【病院見学の申し込みについて】

秋田大学医学部附属病院整形外科は随時、病院見学を受け付けております。

下記ページの「病院見学申し込み」よりお申込み下さい。

秋田大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/>